

特集 水素

主要企業動向

“水素”関連商材と一口に言っても、容器に充填された水素水をはじめ、水素水を生成する機器、水素ガスを生成して吸入する水素吸入器、サプリメント・化粧品原料となる水素発生剤——など、市場には様々な水素関連商材が流通している。ここでは、水素関連商材のリーディングカンパニーをはじめ、業界の有力プレーヤーを取り上げ、各社の主力アイテムの特長から、取り組みまでを詳細にレポートする。

企業向けの「衛生対策セミナー」好評 “腸と免疫”ニーズに合致、整水器の企業一括導入も好調 日本トリム

(株)日本トリム(大阪市北区)は、電解水素水整水器のリーディングカンパニーとして、管理医療機器『トリムイオン』シリーズを展開している。主力アイテムは2017年9月発売の『トリムイオン グレイス』(写真)。透析現場で培った技術を採用し、最大1,300ppbの高濃度電解水素水を生成する機種で、「胃腸症状の改善効果」が認められた管理医療機器。

同社では近年、健康経営を切り口とした法人設置営業を進めており、1,000社を超える企業への設置、さらに設置企業の従業員への販売にも繋げている。なかでも新型コロナ禍にあって、企業向けの「衛生対策セミナー」が好評だ。電解水素水の「胃腸改善効果」に関する話に加えて、低濃度ながら次亜塩素酸を含む電解酸性水の使用方法なども紹介。前年を上回る

日本を代表するメーカーが集結

セミナー実施数を実現、それに伴って企業設置や社員への販売も順調に増加している。「腸は免疫の要であり、新型コロナ禍の今こそ、腸に良い水である電解水素水を普及すべきだと考える」(経営企画部長・平井健太郎氏)としており、全国紙への広告など積極的な営業展開が奏功している。

さらに、昨年下半年には自社WEB販売の専門チームを設立。『トリムイオン キュア』の拡販を開始。WEBやSNS広告を介して、ランディングページへの誘導、またWEBセミナーの実施と連動した取り組みなどを通じて、スタート直後から、目標数字をクリアしているという。2月には、水と健康の情報メディア『トリム・ミズラボ』も開設。ミネラルウォーターや水素水など様々な飲料水の特長や体と水の関係などを客観的に紹介している。「整水器の認知度はまだまだ低く、逆に言えば、潜在市場がある」とし、同メディアを通

じて潜在需要の拡大も目指す。また同社では、電解水素水の有用性についても多角的な研究を進

めており、昨年12月28日には理化学研究所との共同研究による「電解水素水の飲用は、ストレス耐性を強くする」との論文が国際的な科学誌『Biochemical and Biophysical Research Communications』に掲載された。

4月2日には、東京大学未来ビジョン研究センターとの共同研究「電解水素水大量生成のための効率的電解触媒としての単層化白金ナノ粒子」に関する論文が、英国の自然科学誌『Scientific Reports』において、2020年トップ100ダウンロードを獲得したことも発表した。

